

令和4年度 名古屋高速道路公社 入札監視委員会の結果について

開催日及び場所	令和4年8月19日(金) 名古屋高速道路公社 黒川ビル2階 大会議室	
委員	長谷川 ふき子(委員長 弁護士)・張 鋒(名古屋工業大学教授)・野田 直季(公認会計士) (敬称略)	
審議対象期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日	
抽出事案 〔工事〕	総件数 2件	
一般競争入札	(総合評価落札方式) 2件	令和3年度高速2号東山線橋梁修繕工事(吹上工区)
		令和3年度速度規制設備更新工事
抽出事案 〔業務〕	総件数 2件	
一般競争入札	(総合評価落札方式) 2件	令和3年度環境施策に係る基礎資料作成等業務委託
		令和3年度ゴム支承等補修検討業務委託
委員の質問等 に対する回答	質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
講評	<p>①いずれの抽出案件も入札の手続が適正に処理されていると認められる。 ②令和3年6月に導入された「見積活用方式」を取り入れたことは評価できる。 ただし、積算価格の見直しについて合理的な説明ができるよう準備しておくことが望ましい。</p>	

委員の質問等に対する回答

1) 工事

抽出事案	質問	回答
令和3年度高速2号東山線橋梁修繕工事(吹上工区)【一般競争】	当初発注時に不調となり、再発注した際に参加者数が増えた工事 ・なぜ不調となったのか。 ・再発注の際に、工夫した内容を知りたい。	本工事は、他の2工区の工事と同時に公告したが、各工区に参加したのは同一の1者のみであった。同一の者が複数の工事を受注することができない条件の中、当該業者は落札決定順位上位の工事を落札したため、落札決定順位下位の本工事は参加者不在となり不調となった。 再発注にあたり、過去に入札参加実績がある業者にヒアリングを行ったところ、公社積算額と実勢価格に乖離が生じていることが入札参加しなかった理由であったことを確認した。そこで、令和3年6月より導入した「見積活用方式」(参加者から見積価格の提出を求め、妥当性が確認できた場合予定価格作成に反映する方法)を採用した。
令和3年度速度規制設備更新工事【一般競争】	落札率が100%となった工事 ・落札率が100%となった理由を知りたい。	本工事は、機器費が工事価格の大半を占め、また、機器が受注生産品のため複数の製造業者から見積聴取し価格を決定している。 本工事は、製造業者ではなく工事業者であることから、機器費については公社と同様に製造業者への見積聴取により価格決定し、工事費は公表している積算基準を参考に算出したと推察される。 そのため、工事業者が競争努力を行える工事費の部分が少ない上、工事価格の大半を占める機器費の見積価格が公社とほぼ同じであったことから、予定価格と同額の入札が妥当と判断し、結果的に競争相手が不在であったため、落札率が100%になったと推察される。

2) 業務

抽出事案	質問	回答
令和3年度環境施策に係る基礎資料作成等業務委託【一般競争】	落札率が低く、低入札価格調査対象となった業務 ・落札率が低かった理由を知りたい。 ・低入札価格調査の結果、落札決定とした理由を知りたい。	本業務は、低入札聞き取り調査の結果、受注者は脱炭素社会への取り組みを重点施策と位置付けており、道路事業者からの環境施策検討業務の受注実績確保の観点から、低価格で入札したというものであった。 落札決定とした理由は、官公庁及び道路会社での地球温暖化防止等の同種業務の実績を多く有しており、十分な品質を確保する技術力が期待でき、また企業努力により一般管理費等を削減していることが確認できたことから、適切な履行が確保できると判断したためである。
令和3年度ゴム支承等補修検討業務委託【一般競争】	落札率が100%となった業務 ・落札率が100%となった理由を知りたい。	本業務は、事例が少なく特殊性の高い業務であり、また業者の受注業務が多くなる下半期の発注かつ業務期間も5か月という短期間であることから受注者にとって厳しい条件と捉えられた可能性がある。 今回の落札者は、事前公表された予定価格と同額であれば受注しても良いと判断し入札額を決定、結果的に競争相手が不在であったことから落札率が100%になったと推察される。